

(2) 保全すべき種の状況

① 現地調査

動物の保全すべき種について、表 10.7.1-34 に示す文献を選定基準とした。

表 10.7.1-34 動物の保全すべき種を選定基準

選定基準		選定区分
1	文化財保護法（昭和25年 法律第214号）	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
2	埼玉県文化財保護条例 （昭和30年埼玉県条例46号）	県天：県指定天然記念物
3	上尾市文化財保護条例 （平成18年3月29日） 伊奈町文化財保護条例 （昭和38年10月1日 条例第21号）	市天：市指定天然記念物
4	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法） （平成4年6月5日 法律第75号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 第一：特定第一種国内希少野生動植物種 第二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
5	埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例 （平成12年3月24日 条例第11号）	指定：希少野生動植物
6	「環境省レッドリスト 2020」 （環境省、2020年3月公表）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
7	埼玉県レッドデータブック動物編2018 地帯区分「全県」の指定種	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧
8	埼玉県レッドデータブック動物編2018 地帯区分「大宮台地」の指定種	NT1：環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を有しているもの NT2：生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 RT：地帯別危惧

注：埼玉県レッドデータブック動物編2018において、選定基準7の全県評価で「RT」に選定され、選定基準8の地帯別評価で評価無しのもは保全すべき種を選定から除外した。

ア 哺乳類

現地調査では、確認されなかった。

イ 鳥類

現地調査で確認された保全すべき種は、コサギ、クイナ、ヒクイナ、カッコウ、ヤマシギ、タシギ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、カワセミ、アオゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、オオヨシキリ、アカハラ、ルリビタキ、ベニマシコ、ホオジロ、アオジの合計23種であった（表10.7.1-35参照）。

種ごとの確認状況を表10.7.1-36に、確認位置を図10.7.1-2に示す（猛禽類であるツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサの7種の確認位置については図10.7.1-3～図10.7.1-9参照）。

表10.7.1-35 保全すべき種一覧（鳥類）

No.	種名	確認時期					猛禽類 調査	対象事業実施区域		保全すべき種判断基準								
		冬季	春季	初夏	夏季	秋季		内	外	1	2	3	4	5	6	7 <sup>注4</sup>	8 <sup>注4</sup>	
1	コサギ	●						●	●								繁：NT2	繁：NT2
2	クイナ	●							●								越：VU	越：VU
3	ヒクイナ			●					●						NT		繁：CR	繁：CR
4	カッコウ					●			●								繁：NT2	繁：NT2
5	ヤマシギ	●						●	●								越：VU	越：VU
6	タシギ		●					●	●								越：RT	越：NT2
7	ツミ					●	●	●	●								繁：NT2	繁：NT2
8	ハイタカ						●	●	●						NT		繁：DD 越：NT2	越：VU
9	オオタカ						●	●	●						NT		繁：VU 越：VU	繁：VU 越：NT2
10	サシバ						●	●	●						VU		繁：CR	繁：EX
11	ノスリ	●					●	●	●								繁：NT2 越：NT2	繁：DD 越：NT2
12	カワセミ	●				●			●								繁：RT	繁：LP
13	アオゲラ	●				●			●								繁：RT	繁：VU
14	チョウゲンボウ	●				●	●	●	●								繁：NT2	繁：NT2
15	ハヤブサ						●	●	●				国内		VU		越：VU	越：VU
16	サンショウクイ		●						●						VU		繁：EN	繁：EX
17	オオヨシキリ			●					●								繁：NT2	繁：NT2
18	トラツグミ	●							●								繁：NT2	繁：CR
19	アカハラ	●	●						●	●							繁：NT2	
20	ルリビタキ	●							●	●							越：RT	越：NT2
21	ベニマシコ	●							●	●							越：RT	越：NT1
22	ホオジロ	●	●	●	●	●		●	●								繁：RT	繁：NT2
23	アオジ	●	●					●	●								繁：DD	
合計	23種	13種	5種	3種	1種	6種	7種	12種	22種	0種	0種	0種	1種	0種	6種	23種	21種	

注：1) 分類・種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2025年11月27日更新）に従った。

2) 猛禽類調査時に確認された一般鳥類は調査日程等をもとに各季に区分した。

冬季：1～3月、春季：4～5月、初夏：6～7月、夏季：8月

3) 保全すべき種の選定基準については、表10.7.1-34を参照。

1. 「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号）

2. 「埼玉県文化財保護条例」（昭和30年埼玉県条例46号）

3. 「上尾市文化財保護条例」（平成18年3月）、「伊奈町文化財保護条例」（昭和38年10月 条例第21号）

4. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号）

5. 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（平成12年3月 条例第11号）

6. 「環境省レッドリスト2020」（環境省、2020年3月公表）

7. 「埼玉県レッドデータブック動物編2018 地帯区分：全県」（埼玉県、2018年）

8. 「埼玉県レッドデータブック動物編2018 地帯区分：大宮台地」（埼玉県、2018年）

4) 保全すべき種判断基準の7・8における「繁」及び「越」について、以下に示す。

繁：繁殖鳥、越：越冬鳥

表 10.7.1-36 (1/5) 保全すべき種の確認状況 (鳥類)

種名	分布や生態 <sup>註</sup>	現地調査における確認状況
 コサギ	県内では留鳥として各地の水田、河川、湖沼、湿地などに生息する。水の中で足を小刻みに震わせ、餌となる小魚などを追い出して捕らえる。近年は著しく減少している。オオクチバスやカワウなどが小魚を捕食することから、本種の餌資源の減少が原因のひとつとして指摘されている。	
クイナ ※現地では撮影されず	県内では低地帯から台地・丘陵帯の湖沼や河川、休耕田、ヨシ原などの湿地に冬鳥として渡来する。現在は湿地の埋め立て等により生息適地が減ったことから減少傾向にある。旧忍川(行田市)のヨシ原では繁殖期にあたる時期に観察記録がある。	
ヒクイナ ※現地では撮影されず	県内の低地帯を中心にみられる夏鳥であるが、越冬する個体もいる。河川や池沼の周辺、水田、湿原等に生息するが、なかなか姿は見られない。2016年には上尾市、川口市、行田市、越谷市、さいたま市、富士見市等で確認されている。「キョッ、キョッ、キョッ、キョキョキョ…」と始めはゆっくりで、次第に尻下がりに早くなる特徴のある鳴き声を出す。	保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。
 カッコウ	県内には夏鳥として低山帯から台地・丘陵帯に渡来するが、低山帯での生息数は多くない。現在はヨシ原や雑木林の減少等、生息環境の悪化による托卵相手(オオヨシキリ、モズ、オナガ、ホオジロなど)の減少に伴い県内全域で減っている。低地では宿主のオオヨシキリ以上に本種の減少傾向が著しい。秋の渡りの時期には公園などの街路樹で毛虫を食べる姿が見られる。	
 ヤマシギ	県内では冬鳥として渡来する。近くに湿地や河川、湖沼、水田、草地などのある雑木林などで時々観察されるが、元々多い鳥ではない。現在は湿地の埋め立て等により生息適地が減ったことから減少傾向にある。	
タシギ ※現地では撮影されず	県内では冬鳥として渡来し、水田、河川、湖沼などの湿地に生息する。かつては各地の湿地に普通に生息していたが、湿地の埋め立てや圃場整備に伴い冬季に水田の乾燥化が進んだことなどにより生息適地が減ったため数を減らしている。	

注：埼玉県内での分布や生態については「埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第4版)」(埼玉県、2018)を参考とした。

表 10.7.1-36 (2/5) 保全すべき種の確認状況（鳥類）

種名	分布や生態 <sup>注</sup>	現地調査における確認状況
 ツミ	<p>県内では低地帯から低山帯に留鳥として生息し、繁殖する。現在は大きな林よりも市街地の緑地や公園の林など小さな緑地で営巣するものが多い。個体数は増加傾向にあるが、生息環境は必ずしも良くなっていない。春秋の渡りの時期には通過個体が県内各地で記録されている。</p>	
 ハイタカ	<p>県内では冬季には平地の林、農耕地、河川敷などに生息する。現在はやや増加傾向にある。山地では夏季にも生息するが、繁殖の状況については良く分かっていない。春秋の渡りの時期には通過と思われる個体が県内各地で記録される。</p>	
 オオタカ	<p>県内では留鳥として平地から山地の林や農耕地、河川敷などに生息する。かつて、低地帯では冬季でも生息数が少なかったが、現在は低地帯の社寺林や屋敷林などで営巣するものが増えている。</p>	<p>保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。</p>
 サシバ	<p>県内では夏鳥として飛来する。低山の林で繁殖し、林縁や農耕地、山林などでカエル、トカゲ、ヘビ、ネズミ、鳥類などを捕食する。かつては、低地帯、台地・丘陵帯、低山帯の各地に夏鳥として渡来し繁殖していたが、現在は県内での繁殖情報は極めて少なくなっている。春秋の渡りの時期には通過個体が県内各地で記録されている。</p>	
 ノスリ	<p>県内では台地・丘陵帯で繁殖している他、低地帯での営巣も確認されており動向が注目される。冬は低地帯の農耕地や河川敷などでよく見られるようになってきた。山地の森林や岩壁で繁殖するが、低地帯での繁殖確認が増えている。冬は農耕地、河川敷などの見通しの良い場所で見られる。主にネズミ、モグラなどの小型の哺乳類を餌とする。</p>	

注：埼玉県内での分布や生態については「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（埼玉県、2018）を参考とした。

表 10.7.1-36 (3/5) 保全すべき種の確認状況 (鳥類)

種名	分布や生態 <sup>注</sup>	現地調査における確認状況
 <p>カワセミ</p>	<p>県内では留鳥として低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に生息しており、小魚や小さいザリガニ、エビなどを捕らえる。かつて水質悪化のため都市近郊でいなくなったが、水質改善と共に都市河川でも姿がよく見られるようになり繁殖もしている。土の崖に嘴で巣穴を掘る。水辺に繁殖適地が無いと、人が掘った穴の側面や残土等の土盛に巣を作ることがある。</p>	
 <p>アオゲラ</p>	<p>県内では留鳥として生息する。かつての主な生息地は低山帯から山地帯であったが、雑木林が放置され成熟した落葉広葉樹林となりキツキ類にとって好適な生息環境が整ったことにより台地・丘陵帯での繁殖記録が増加している。また、現在は低地帯でも雑木林や公園などで繁殖記録が増加している。</p>	
 <p>チョウゲンボウ</p>	<p>県内では留鳥として生息し、繁殖する。1980年頃より、低地帯の高架橋や取水塔のような人工構造物に営巣するようになり市街地でもよく見られるようになった。さいたま市内のビルではかなり以前から繁殖しているのが知られている。冬季は河川敷や農耕地、草地等の開けた場所でよく見られる。畑地などの上空でホバリングしながら獲物を狙う。主食はネズミ、昆虫類だが、自分と同じ大きさのキジバトを捕らえることもある。</p>	<p>保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。</p>
 <p>ハヤブサ</p>	<p>県内では冬鳥として渡来し、平地から山地の河川敷、農耕地、湖沼、ダム湖などに生息する。現在はやや増加傾向にあり、夏季の観察記録もある。県内でも人工構造物に営巣し、繁殖する兆候がある。</p>	
<p>サンショウクイ ※現地では撮影されず</p>	<p>県内では夏鳥として渡来し、標高の低い山地や山麓の大きな落葉樹のある林に生息する。樹上で昆虫などを捕り、高い枯れ枝や梢に直立した姿勢でとまる。かつては低地帯の草加市や熊谷市等の屋敷林でも普通に繁殖していたが、三芳町上富の並木での繁殖を最後に1990年代以降は確認されていない。また、狭山丘陵、加治丘陵の台地・丘陵帯や秩父市の山地帯でもかつては繁殖が記録されていたが、2000年代に入って夏季の記録はほとんどない。春秋には低地帯を含めて少数の通過記録はあるが減少が懸念されている。</p>	



注：埼玉県内での分布や生態については「埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第4版)」(埼玉県、2018)を参考とした。

表 10.7.1-36 (4/5) 保全すべき種の確認状況 (鳥類)

種名	分布や生態 <sup>註</sup>	現地調査における確認状況
<p>オオヨシキリ ※現地では撮影されず</p>	<p>県内では低地帯のヨシ原に夏鳥として渡来し、繁殖している。現在は繁殖地である河川敷のヨシが外来種のおオブタクサやアレチウリなどに圧迫され減少しているため、一部に生息数の著しい現象がみられる。一夫多妻制が知られており、オスはメスよりも早く渡来し、よい縄張り確保してメスを誘う。巣作りはメスだけが行い、子育ても主にメスが行う。</p>	<p>保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。</p>
 <p>トラツグミ</p>	<p>県内では丘陵帯から亜高山帯までの森林で繁殖するが、減少傾向にあり、現在では丘陵部での繁殖記録が途絶えている。山地部においても減少傾向にある。冬季には、低地帯にも漂行し、市街地の公園や社寺林、人家の庭にも出現する。</p>	
 <p>アカハラ</p>	<p>県内では、山地帯から亜高山帯の森林に生息し繁殖するが、ニホンジカの採食影響などに伴う生息環境の悪化により、山地での個体数の減少傾向が著しい。冬季には低地帯にも漂行し、市街地の公園や社寺林、人家の庭にも出現する。夏季には朝早くから「キョロン。キョロン」と二声ずつよく鳴く。</p>	
 <p>ルリビタキ</p>	<p>県内では、夏季には秩父山地の山地帯上部から亜高山帯の樹林地に生息し繁殖する。冬季は、低地から山地の林に漂行し、越冬する。社寺林や市街地の公園の林にも姿を見せる。</p>	
<p>ベニマシコ ※現地では撮影されず</p>	<p>県内では冬鳥として低地から台地・丘陵帯、低山帯、山地帯に渡来する。台地・丘陵帯では狭山湖や入間川、高麗川、都幾川等の湖岸・河川敷などのヨシ原、あるいは谷戸の休耕田などのヨシ原で記録されている。低地帯では荒川河川敷などのヨシ原や疎林地に生息している。「ピッポ」「フイフイ」などの柔らかい声で鳴く。種子類を好んで食べる。</p>	

注：埼玉県内での分布や生態については「埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第4版)」(埼玉県、2018)を参考とした。

表 10.7.1-36 (5/5) 保全すべき種の確認状況（鳥類）

種名	分布や生態 <sup>注</sup>	現地調査における確認状況
 <p data-bbox="233 510 341 539">ホオジロ</p>	<p data-bbox="427 342 936 533">県内では低地帯から山地帯まで留鳥として広く分布する。現在は特に県南部の荒川沿いや見沼田圃等の低地での繁殖が少なくなっている。繁殖期には、見通しのよい木の梢などに留まり大きな声でよくさえずる。</p>	<p data-bbox="995 533 1385 595">保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。</p>
 <p data-bbox="245 801 328 831">アオジ</p>	<p data-bbox="427 577 936 846">県内には冬鳥として渡来し、県内各地の林や藪、ヨシ原、公園、人家の庭などに普通に生息する。長野県境にある奥秩父の三国峠付近や雁峠付近では夏季の観察記録もあるが、現在は繁殖地での情報がほとんど得られていない。春の移動時期に、天気が良いと低地帯でもさえずる姿を見ることがある。</p>	


注：埼玉県内での分布や生態については「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（埼玉県、2018）を参考とした。

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域

 : 調査範囲

 : 原市沼川


 : 側溝、旧水路、水路

 : 市町界

〈確認時期〉

 : 冬季

 : 春季

 : 初夏季

 : 夏季

 : 秋季



S = 1:10,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-2 保全すべき種の確認位置（鳥類）

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

⊖ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ⊙ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊙ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-3 ツミ確認位置 (第2営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。


凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

-  : 成鳥雄
-  : 成鳥雌
-  : 成鳥不明
-  : 若鳥
-  : 幼鳥
-  : 性齢不明

〈行動〉

-  : 旋回飛翔
-  : 急降下
-  : 林内消失
-  : ディスプレイ
-  : 餌運び
-  : 巣材運び
-  : とまり
-  : 旋回上昇
-  : ハンティング
-  : 攻撃
-  : 被攻撃
-  : 停空飛翔
-  : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-4(1/2) ハイタカ確認位置 (第1営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

↻ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ◎ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ● : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-4(2/2) ハイタカ確認位置 (第2営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

⊖ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ⊙ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊙ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-5(1/2) オオタカ確認位置 (第1営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

↻ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ◎ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊙ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-5 (2/2) オオタカ確認位置 (第2営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

-  : 成鳥雄
-  : 成鳥雌
-  : 成鳥不明
-  : 若鳥
-  : 幼鳥
-  : 性齢不明

〈行動〉

-  : 旋回飛翔
-  : 急降下
-  : 林内消失
-  : ディスプレイ
-  : 餌運び
-  : 巣材運び
-  : とまり
-  : 旋回上昇
-  : ハンティング
-  : 攻撃
-  : 被攻撃
-  : 停空飛翔
-  : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-6(1/2) サシバ確認位置 (第1営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

-  : 成鳥雄
-  : 成鳥雌
-  : 成鳥不明
-  : 若鳥
-  : 幼鳥
-  : 性齢不明

〈行動〉

-  : 旋回飛翔
-  : 急降下
-  : 林内消失
-  : ディスプレイ
-  : 餌運び
-  : 巣材運び
-  : とまり
-  : 旋回上昇
-  : ハンティング
-  : 攻撃
-  : 被攻撃
-  : 停空飛翔
-  : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-6(2/2) サシバ確認位置 (第2営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ (blue) : 成鳥雄  
 → (pink) : 成鳥雌  
 → (purple) : 成鳥不明  
 → (green) : 若鳥  
 → (orange) : 幼鳥  
 → (grey) : 性齢不明

〈行動〉

⊖ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → (with slash) : 林内消失  
 ⋮ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ⊙ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊗ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-7(1/2) ノスリ確認位置 (第1営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

⊖ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ⊙ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊙ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-7(2/2) ノスリ確認位置 (第2営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

⊖ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ⊙ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊙ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-8(1/2) チョウゲンボウ確認位置  
 (第1営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

⊖ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ⊙ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊙ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-8(2/2) チョウゲンボウ確認位置  
 (第2営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

→ : 成鳥雄  
 → : 成鳥雌  
 → : 成鳥不明  
 → : 若鳥  
 → : 幼鳥  
 → : 性齢不明

〈行動〉

↻ : 旋回飛翔  
 ≫ : 急降下  
 → : 林内消失  
 ≡ : ディスプレイ  
 ≡ : 餌運び  
 ≡ : 巣材運び

● : とまり  
 ◎ : 旋回上昇  
 X : ハンティング  
 ▲ : 攻撃  
 ▼ : 被攻撃  
 ⊕ : 停空飛翔  
 ⊙ : 鳴き声



S = 1:25,000





この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-9(1/2) ハヤブサ確認位置 (第1営巣期)

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域     : 定点位置

〈個体〉

-  : 成鳥雄
-  : 成鳥雌
-  : 成鳥不明
-  : 若鳥
-  : 幼鳥
-  : 性齢不明

〈行動〉

-  : 旋回飛翔
-  : 急降下
-  : 林内消失
-  : ディスプレイ
-  : 餌運び
-  : 巣材運び
-  : とまり
-  : 旋回上昇
-  : ハンティング
-  : 攻撃
-  : 被攻撃
-  : 停空飛翔
-  : 鳴き声



S = 1:25,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.7.1-9(2/2) ハヤブサ確認位置 (第2営巣期)